

ご自由にお持ち帰りください。

# 生涯学習

# とっとり

鳥取県教育委員会発行  
2017.3 弥生

169

鳥取県内の生涯学習講座が満載!

ページ

## 1 特集

**朗読の楽しさを伝え、地域づくりに役立てたい!**

米子市朗読ボランティア「火曜の会」

3 話の内容を文字にしてお伝えします!  
要約筆記グループ「まるよ」

4 とっとり県民カレッジ連携  
生涯学習講座情報(3・4月)

25 鳥取市歴史博物館 速報展「鳥取を掘る!! 2017」

26 連携講座 おすすめピックアップ

27 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)

29 鳥取県立博物館

国際交流ライブラリー・環日本海交流室を活用しよう!!

30 文部科学大臣表彰 県内の優れた取組をご紹介します!  
子どもの未来は家庭から

31 鳥取県立博物館 企画展

「シリーズ ミュージアムとの創造的対話 01」  
ニュース時事能力検定に挑戦してみませんか!



『切り絵シリーズ』法勝寺川土手沿いの桜(南部町)

土手沿いの桜並木も、5.3キロも続けばちょっとした名所  
カメラ片手にゆったりとした春を楽しみたいものです。

絵・文:紙原 四郎氏

# 朗読の楽しさを伝え、地域づくりに役立てたい!

## 米子市朗読ボランティア「火曜の会」



米子市教育委員会主催の朗読ボランティアのための基礎講座修了生有志が立ち上げた「火曜の会」。約30年以上の長きにわたって地域の読書活動に多大な貢献が認められ、平成28年度・第48回全国優良読書グループ\*1として表彰されました。活動について、メンバーのみなさんにお話を伺いました。



代表  
ささか けいこ  
笹鹿 啓子 さん

指導者  
なんげ きょうこ  
南家 教子 さん

### 「火曜の会」発足

昭和58年、米子市教育委員会社会教育課（現、生涯学習課）主催で毎週火曜日に朗読ボランティアのための基礎講座「米子市中央婦人学級」が開催されました。講座には、読書好きな方や朗読に興味をもつ約30人が参加。

講座も終わりに近づくころ、「やっと朗読のスタート地点に立つことができたのに、このまま終わるのはもったいない」という声が上がリ、修了生有志12人で米子市朗読ボランティア「火曜の会」を結成。現在、男性4人を含む28人で活動中です。

この会では、主に、保育園・幼稚園での「おはなし会」、小学校での朝読書ボランティアや平和学習などの定期的なボランティア活動、特別支援学校や公民館で活動を行っています。また、平成9年から、毎月1回、米子市立図書館において「おはなし会」、米子市児童文化センターにおいても「おはなしのへや」の活動を行っています。

### 「母の日」と「原爆」をテーマに活動

ボランティア活動のほかにも独自の取組として、毎年、「母の日」と「原爆」をテーマに朗読コンサートを開催しています。「母の日」のコンサートは、昭和62年から母の日の前後に

開催。「おかあさんだぁ～いすき～母の日に寄せて～」と題して、朗読や人形劇、ペープサート\*2劇などを行っています。

「原爆」をテーマとしたコンサートは、昭和63年から広島に原爆が投下された8月6日前後に、「星は見ている～原爆の日に寄せて～」と題して、米子市立図書館で開催。「私たちの会は、原爆を重要なテーマとして取り組んでいます。戦争を知らない子どもたちにも平和の尊さを伝えていきたいですね」と笹鹿さん。

南家さんは、「朗読コンサートを始めて約30年。コンサートに向けて実行委員会を立ち上げ、みんながアイデアを出し合い、一生懸命取り組んできました。朗読の技術も向上しましたが、原爆について深く学んだことで、人としても成長していますね」と言います。

### 「原爆」を伝える難しさとやりがい

メンバーの中には一人被爆された方がいて、自身の体験談を紙芝居にして伝えています。原爆をテーマとして活動しているこの会にとって、重要な方です。その方から被爆体験を聴き、深く学習を進めて朗読に活かしています。

メンバーは、「世界では、今も戦争が絶えません。原爆の記憶を風化させないように、現実を受け止め、伝えていかなければいけないと思います」「私たちは、例えば、原爆で息子を

亡くしたお母さんの手記をお母さんに成り代わり、想いを想像して語ります。だから、語り部とは違います。相手に伝わるように読むのは難しいですが、朗読にはすごい力がありますよ」と力を込めて話します。



公民館での出前朗読会  
星は見ている～原爆の日に寄せて～【少年口伝隊 1945】

- ※ 1 全国優良読書グループ  
公益社団法人読書推進協議会が、読書週間行事の一環として、全国各地の読書グループに光を当てて顕彰する制度
- ※ 2 ペーパーサート  
紙人形劇のことで、絵が動くところがペーパーサートの魅力の一つ。2枚の紙に絵を描き、間に割り箸などの持ち手を挟んだ状態で貼り合わせて作ります。持ち手をつかんで裏表を返しながら操作します。

## 自分たちの活動を地域で生かしたい！

米子市には読み聞かせのグループがたくさんありますが、交流がほとんどありません。「火曜の会」のように、活動の盛んなグループは、NPO 法人「本の学校」生涯読書をすすめる会に加入していますが、地域の公民館などで活動している小さなグループは入っていません。南家さんは、「ただ本が好きということで、学校読書ボランティアとして活動している人もいますが、継続は難しいようですね。少し講習を受けられるとか、活動へのフォローがあれば長く続くのですが、残念です」と言います。さらに、「地域の人が、地域の子どもたちに読み聞かせをするのが一番。特に高齢者がされるのがいいですね。地域で子どもと高齢者とのつながりが生まれますし、高齢者の生きがいにもなる。私たちの会は、そういう働きかけもしています」と読み聞かせをとおした地域づくりについて提言します。

活動の幅が広がり、ボランティアの要請が多くなった「火曜の会」。「一生懸命学び、活動することによって、みなさんが喜んでくださるのがうれしいです。本を読むことの楽しさをこれからも伝えていきたい。だから、もっと仲間を増やしたいですね」と笹鹿さんは言います。

ユーモアを交えながら的確に指導される南家さん。それをしっかり受け止めて活動するメンバーたち。きっとこれからも朗読で人々の心を魅了し続けることでしょう。



## 教室におじゃましました！

和気あいあいとした雰囲気の中、いっしょに学習がスタート。まずは発声練習から始め、この日は泉英昌さんの「まっと、空の方に。」を順番に朗読。南家先生の解説を聴きながら、言葉の一つひとつに意味を持たせ、心を込めて丁寧に文章を読まれていました。ずっと聴いていると情景が浮かび、すっかり物語の世界に引き込まれてしまいました。

最初は、私には無理かなと思いましたが、とても楽しくて続けることができています。友達もたくさんできました。  
(船木 仁美さん 平成 24 年～)

米子市報で、朗読のイベントを知り、入会。本を読む楽しさを知るとともに、朗読がこんなに難しいものとは思っていなかったのが、驚きの毎日です。  
(多々納 美登利さん 昭和 58 年～)

児童文化センターでボランティアをしていた時に、火曜の会の朗読会があり、声をかけていただきました。  
(川川 くに子さん 平成 23 年～)

小中学校時代は図書委員をしていました。とにかく本が好きで、図書室の本をすべて読みました。米子市に引っ越してきた際に、朗読ボランティアの基礎講座に参加し、現在に至っています。今、声に出して新聞を読むのが日課です。  
(来間 宏子さん 昭和 58 年～)

私たちは、みんな家族に支えられて、朗読の学習とボランティア活動ができています。家族の理解に感謝！！  
(笹鹿 啓子さん 昭和 58 年～)

出雲から毎週通っています。新聞記者で、米子で支局長だったときに「火曜の会」のイベントに参加。朗読経験もあったので、活動を始めました。  
(原田 勉さん 平成 12 年～)

15 年程前、小学校の教員時代に、代表の笹鹿さんに出会い、原爆の朗読コンサートに連れていかれた。とても感動しました。その後、南家さんに誘われて活動に参加。今年で 3 年目になります。  
(倉光 信一郎さん 平成 27 年～)



例会日 毎週火曜日(米子市福祉保健総合センターふれあいの里)  
**私たちと一緒に活動しませんか？**  
(連絡先) 笹鹿 啓子 (0859-29-7190)

# 話の内容を文字にしてお伝えします！



平成 27 年から開催している  
「聴いてごしないじげのおはなし～字幕っていいな～」

## 要約筆記グループ「まるよ」



聴覚障がい者が楽しめるイベントの企画など、当事者の方との親睦、交流を図る活動を行う、要約筆記グループ「まるよ」。代表の方に、お話を伺いました。



前会長

みのほら みゆり  
袁原 美百合 さん

現会長

さとう えりこ  
佐藤 栄里子 さん

## 県内初の要約筆記グループ

要約筆記は、話し手の内容をつかみ、それを文字にして伝える聴覚障がい者等のためのコミュニケーション手段です。

昭和 59 年、要約筆記奉仕員養成講座の修了生 4～5 人で、県内初の要約筆記グループを結成。要約筆記を表す略号「㊤」の読み方である「まるよ」をそのままグループ名とし、現在、男性 3 人、女性 9 人の 12 人が在籍中。

以前は、講演会などで要約筆記が必要なときは、主催者からの依頼により、「まるよ」から要約筆記者を派遣していましたが、現在では、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会が窓口となり、要約筆記者を派遣。これにより、現在の「まるよ」は、要約筆記の普及啓発や聴覚障がい者との交流を目的として活動しています。

## 工夫を凝らした新たなイベントも企画！

毎月、第 2 火曜日に例会を開いて、活動計画を立てたり、メンバー同士で情報交換をしたりしています。

また、月に 2 回、倉吉市上井公民館で開かれる、倉吉市主催の介護予防教室「なごもう会」に参加。会話の内容を要約筆記して、スクリーンに投影し、普及啓発活動を行っています。

さらに、毎年 3 月には、「耳の日交流会」を開催。聴覚障がい者と健聴者とが交流できる場を提供しています。

平成 27 年からは、「人形劇サークルてっぽんかっぼん」、「倉吉民話の会」、「無声映画『三朝小唄』を語り隊」とコラボレーションして、「聴いてごしないじげのおはなし～字幕っていいな～」というイベントを倉吉市に現存する最古の町屋建物「倉吉淀屋」で開催。

代表の佐藤さんは、「人形劇に要約筆記をつけようと思ったのは、以前、東部で開催された『円通寺の人形芝居』で要約筆記をしたのがきっかけです。その人形芝居は、昔の言葉で語られていたので、聞こえる人もスクリーンの文字を見ておられました。文字で表すとみなさん助かるのだなと感じましたね」と言います。

## 支援が必要な方を探す活動も！

「活動を続ける中で、地域には福祉制度の支援を受けていない方がたくさんいることがわかりました。そうした方を探し出し、支援していくことも課題となっています」と話す袁原さん。

「私たちは、補聴器業者が催す補聴器相談会にも出向いています。そこに来られる方は、補聴器をつければ聞こえるので、私たちの働きかけが押し付けにならないように気を付けています。まずは、『まるよ』の活動を知ってもらい、活用シーンを見出していただけたらうれしいです」と佐藤さん。

袁原さんは、「外国語ならともかく、日本語に字幕がつくのは不思議だと感じる方もたくさんいます。要約筆記がもっと普及して、音声だけではわからない方、わかりにくい方がいるということ意識できる社会になれば！」と共生社会の実現を願って話します。

### 要約筆記者を目指す方へ

#### ●要約筆記者になるには？

要約筆記者養成講習会を修了後、選考試験に合格した方が県に登録できます。  
対 象：聴覚障がい者等の福祉に理解と熱意を有する高校生以上の方

### 行事主催者さまへ

#### ●講演会・行事などで、要約筆記が必要なときは？

事前に下記にご相談のうえ、実施 15 日前までに専用の申込用紙でお申し込みください。

公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会  
(鳥取県西部聴覚障がい者センター)  
〒683-0845 米子市旗ヶ崎 6 丁目 19-48  
TEL (0859) 30-3659 FAX (0859) 30-3660

※詳しくはホームページをご覧ください。鳥取県聴覚障害者協会 検索